

第 17 回 沖縄県医師会ドクターズフォーラム 予防医療－検診を知ろう－

女性医師部会 副部長 知花 なおみ



第 17 回沖縄県医師会ドクターズフォーラム テーマ：「予防医療－検診を知ろう－」

日 時：令和 6 年 3 月 5 日（火）19:00～21:00
場 所：ハイブリッド開催
（配信場所：沖縄県医師会館 会議室 4）

1. 開会
司会進行 沖縄県医師会女性医師部会
副部長 西 由希子
2. 挨拶
女性医師部会 部長 銘苅 桂子
3. 講演
演題「健診・検診・ドックのいろは」
講師：ハートライフ病院予防医学センター
大城 志乃

演題「検診センターでの働き方」
講師：豊見城中央病院附属健康管理センター
西平 恵梨
4. 意見交換
女性医師部会 副部長 知花なおみ
5. 総括
女性医師部会 当山 和代
6. 閉会
女性医師部会 高良 和代

去る 3 月 5 日（火）19 時より、本会館を配信場所に、標記ドクターズフォーラムをハイブリットにて開催した。

今回のフォーラムでは「予防医療－検診を知ろう－」をテーマに、健診と検診の違いや健診受診率が低い沖縄県民に対してどのような取り組みをしているのかについて講演いただいた。講演後は、Zoom 参加者より質問を受け付けながら意見交換を行ったので、以下に会の模様を報告する。

挨拶

銘苅部長より概ね下記のとおり挨拶があった。

ドクターズフォーラムは 17 回目の開催となった。女性医師が家庭と両立した就労が厳しかった環境から、時代の流れと女性支部会の活動のおかげもあり、男女共同参画が通常のものとなったと考えている。男女問わずまだまだ課題も残っている。これまで在宅診療、オンライ

ン診療等をテーマに取り上げ、様々な勤務形態の状況を伺ってきた。

今回は予防医療－検診を知ろう－というテーマで企画している。大城先生からは「健診・検診・ドックのいろは」について。西平先生からは「健診センターでの働き方」について、専門医やキャリア形成についてご講演いただく。

講演

(1)『健診・検診・ドックのいろは』

講師：ハートライフ病院予防医学センター

大城 志乃 先生

健診について

健康づくりの観点から経時的に状態を把握するために行われるもの。健康状態を確認するとともに、疾患のリスク因子を発見し、生活習慣の改善に導くことを目的としている。

特定健康診査・特定保健指導

2008年から始まり、40歳から74歳までの公的医療保険加入者全員が対象。

定期健康診断

労働者の健康確保を目的とし、労働安全衛生法により、事業者が労働者に対して行う義務がある。その他の健診として、特殊業務従事者健診、長寿健診、学校健診などがある。

検診について

特定の疾患に罹患しているかどうかを調べるもの。主なものにがん検診や肝炎ウイルス検診、歯周病疾患検診、骨粗しょう症検診などがある。

がん検診の目的は、一定の集団を対象としてがん罹患しているもの、あるいは罹患している疑いのあるものを早めに発見し、必要かつ適切な診療につなげることにより、がんの死亡者の減少を目指すものである。

がん検診の死亡率を減少させるためには、有効性の確立した検診方法、徹底した精度管理、受診率対策の3つが重要。精度管理とは、検診の一連の流れを通して、それぞれの段階に応じて不備がないかを確認し、必要な点は改善すること。

健診受診率を上げるための取り組みとして、ショッピングセンターや公共施設での街角健診、

早朝ナイト健診、健康啓発イベントや商品券を配布するなどキャンペーンが行われている。

人間ドックについて

健診と検診の両方の側面を持っている。医療機関が任意で提供する医療サービス。個人の死亡リスクを下げるのが目的で、費用も自己負担で行われる。人間ドック、健診に関する学会として日本人間ドック学会、日本総合健診医学会がある。

ハートライフ病院予防医学センターの状況

当院の受診者は年間約19,000人で年々増加している。便潜血陽性者の二次検診の受診勧奨を強化しており、当日で結果説明と紹介状発行を行っている。その際、保健師から精査のできる近隣の医療機関の紹介も行っている。

沖縄県の状況

特定健診の令和2年度の受診率は全国平均が53.1%に対し、沖縄県は48.8%と全国平均を下回っている。沖縄労働局が発表した職場の定期健康診断の結果では、有所見率は12年連続で全国最下位となっている。全国ワースト3位内に入っている項目としては、BMI25以上：男性1位・女性1位、腹囲基準値以上：男性1位・女性1位、空腹時血糖値126mg/dl以上、HbA1c6.5%以上：女性2位、中性脂肪300mg/dl以上：男性3位・女性4位、AST、ALT51IU/L以上：女性1位、γ-GT101IU/L以上：女性2位となっている。

(2) 健診センターでの働き方

講師：豊見城中央病院附属健康管理センター

西平 恵梨 先生

豊見城中央病院附属健康管理センターの状況について

当院の1日の平均受診者は109名、年間約30,000人弱となる。人間ドックのみの施設で、県内初の男女別検査フロアとなっている。4階に検査結果の説明室が7部屋ある。必要な方には、紹介状の発行、友愛会での外来やCT検査などの予約を取ることができる。同センターを再度受診したいと満足度が高い結果となっている。

- ・ 当院でのこれからの取り組みやニーズについて
DX 推進、医療情報共有アプリの導入、AI 等活用したオプション検査の導入予定、航空身体検査指定機関の認定が次年度より稼働予定。
- ・ 勤務体制：常勤医 7 名、非常勤医 15 名
- ・ 勤務時間：常勤医 7:30-17:30、非常勤医（4h）
9:00-13:00、10:00-14:00、12:00-16:00（非常勤医は専属で勤務している先生や、他施設と兼務、産業医を兼務されている場合もある。）
- ・ 女性医師の働き方について

勤続年数10年以上3名、有給取得率108.5%。
急な休みでもセンター内での応援体制、友愛会法人内の代診（連携）があり、雇用を維持する様々な取り組みが行われている。

健診管理センターで働くきっかけ

子育てや家事、実家の介護、研修医としての勉強の中で、フルタイムで復帰するのは難しく悩んでいた頃に先輩医師に『細く長く仕事をすればいい』という言葉をもらい、健診へ転科することにした。

ドック医の専門医制度について

人間ドックには、専門医制度や施設認定などを行っている日本人間ドック学会と健診業務に特化した日本総合健診医学会の二つの学会がある。この二つの学会が合同して人間ドック健診専門医制度の単位取得が可能。

健診センターで働いてみて

病院勤務時代とは違ったアプローチが必要と感じた。健診結果をいかに理解してもらい、受診して下さる方へ少しでも将来の健康に繋がるような心がけをしている。

今後の展望としては、目標としている資格取得、受診者へより良い説明ができるようにさらなる研鑽を積むこと、職場健診や産業医の兼務、フルタイムへの復帰を検討している。

健診センターで働いてみた結果として、様々な事情がある方が多いが、助け合ってとても働きやすい環境。医師として勤務し、子育ても両立できる場。仕事を続ける、ということを諦めずに今後も継続していきたい。

意見交換

■要精検の受診率について、どのような取り組みを施設や県内でされているか。

→精検受診が確認されない場合は、受診2～3ヶ月後に健診センターから連絡をする。さらに返事がない場合には、また半年後にもう一度再検査の案内をしている。受診を必ずして頂きたい方は、受診検査説明後、直接所属保健師へお願いして受診勧奨していただく場合もある。

■検診の受診率を上げることと、要精検受診、アプローチの二つが必要だと思います。がん検診や健康診断の受診率向上のために、いろいろな団体に取り組んでいるようだが県民に届いているか。

→市町村や医師会としてもイベントを開催しているが、なかなか健診ということ自体が健康な状態なので、あまり不便を感じてないというところもあり、難しいところではあるかなと思う。

→健康経営宣言というものがある。事業所と協会けんぽや医師会、労働局などが連携して、職場での健康づくりを推進して行こうという取り組み。職員の健康は企業の資産であり、健康経営は社外からの社会的評価、企業価値をあげることに繋がるという視点での取り組み。

■胃や大腸がん検診の受診率は低いですが、子宮がん、乳がん検診は全国並みに受診率がいいのはどうしてか。

→おそらく乳がん検診に関してはピンクリボン活動やマスメディアでも取り上げられたりしているので、乳がん検診に対する意識が高いのではないかな。

■検診ガイドラインは学会員ではない私たちもみることができるのか。

→誰でもホームページにアクセスしてご覧いただける。

■私の働いている病院では、職員の特定保健指導の受診率が低い、ハートライフ病院では受診率が高い。

→ハートライフ病院は市町村の特定保健指導だけの数値ではなく、ドックや職域健診の受診者の保健指導の数も入っているので、高くみえるのではないかな。また、ドック受診時に保健師6名体制で保健指導を行うことも要因かと思う。

→保健指導を希望するかしないかチェック欄がある。検査結果の説明の後に、保健指導を受けようように推奨している。

■精度管理について、例えば病院の健診が評価され、各医療機関にそれぞれデータがフィードバックされるのか。

→医療機関が市町村と契約する時にチェックリストがあり、提出して契約する。最終的には、県と生活習慣病健診管理協議会で、医療機関ごとに評価され、市町村との契約の際に指摘される。

■精度管理は公表されているか？

→県の保健医療部のホームページに医療機関別のチェックリストの調査結果が出ている。

■年一回の健診で、例えば肥満率や血圧が高い、運動指導などいろいろと保健指導があると思うが特にお伝えしている内容はありますか。

→一般の職種の方は癌のリスクや血糖値のグラフを目にする機会が少ないので、できるだけグラフで視覚的に見せることを心がけている。視覚でお見せすると、納得いただいたり、危機感を持っていただけることが多いと感じる。

■生活習慣の中で喫煙に関して禁煙指導とか、何か具体的にお話をされることはありますか。

→喫煙されている方は、タバコに関するこだわりが強い方が多く、禁煙という単語を出した瞬間、耳を塞ぐ方が多いと感じる。私は「タバコを吸われてらっしゃるんですね。理由は

なぜ吸われてらっしゃいますか？」という話をできるだけ聞くようにしている。「がんの話と肺気腫などの病気のリスクがありますよ」という内容をお話しするようにして、病気に関する話しはさせていただく。

■要精検の患者の診療を行うことがあるが、精査の進め方、ガイドラインの変更点などアップデートがあれば教えてほしい。

→一般的な健康診断や特定健診については特にこの精査方法で精査して下さいと示したガイドラインはない。先生方が患者の問診や診察を行って、必要だと判断した検査や治療を進めていただければと思う。(ジェネラリストのための内科外来マニュアル第3版等をご参照ください)

→がん検診は各科のガイドラインに沿ってお願いする。判定基準やそれに関する内容は人間ドック学会のホームページに記載がある。その他、個人的に勉強する際には、検診項目に関する調査や保健指導、労災二次、産業医による健康管理など、厚労省のグループチームによる様々な情報なども参照している。(厚労省；標準的な健診・保健指導プログラム等)

■ハートライフ病院では人間ドック機能評価でA判定を取っているが、どのような取り組みをしているか。

→便潜血の検査結果を当日お知らせしていることと、保健師が積極的に連絡を取って受診勧奨している。

■保健師の役割が大きく感じるが、病院で働いていても保健師との接点がないが、健診センターにおける保健師の役割は具体的にどのような取り組みがあるか。

→受診者目線という言葉がキーワードになっている。より生活の場面に突っ込んだ形で、どのような一日の過ごし方で、こういったものが好みか、運動の始め方を保健師がより詳しく聞いて、その人の生活に即した形で提案をしている。

総 括

當山先生より、以下の通り総括があった。

沖縄県の受診率が低いため、市町村でも商品券を配ったりと取り組みをしていることがわかった。友愛医療センターでは、検査前に診察をして検査自体の振り分けをするなどユニークな取り組みで驚いた。また、腸内フローラや膵臓がんなどの取り組みはこちらもすごく勉強になった。

また、葛藤しながらも子育てしながら長く細く続けていくことに、自分のことかなと思いがらいろんな女医さんが聞いていたのではないかな。

閉 会

高良先生より、以下の通り閉会の言葉があった。

検査結果を見ながら患者さんとお話をするが、健診担当の先生がどんな熱い思いで患者にお話されているのか、今回しみじみ感じた。

私は開業医で一人でやっているの、ドックの結果を持っていたらと安心する。これからは患者さんにドックを勧めていきたい。

女性医師の働き方に正解はないということを感じた。それぞれ環境やライフスタイルが違うが、医師を続けられることが正解ではないか。いろいろなステージに合わせながら、とにかく医師を引退せずずっと働き続けることが女性医師として正解かなと感じている。

印象記

女性医師部会 副部長 知花 なおみ

女性医師部会主催のドクターズフォーラムは、毎年様々なテーマをあげ、その道の第一線で活躍されている先生にお話を伺っていますが、今年は「予防医療－検診を知ろう－」というテーマでお二人の演者の先生からご講演をいただきました。

最初にハートライフ病院 予防医学センターの大城志乃先生から、「健診・検診・ドックのいろは」というタイトルでのご講演をいただいたのですが、まずこのにんべんの「健診」と、きへんの「検診」の違いすら知らなかった私としては、タイトルからもうすでに「目から鱗」の状態でご講演を聞いていました。

講演を通して、「健診」は健康な人の中から疾患のリスクを発見し、未病の状態から発病しないように介入することであることを理解し、そしてそこには医師の働きに加え、保健師の働きが大きいことも学びました。COVID-19 のパンデミックもあり、疾病を持った患者さんを診療している臨床現場では、誰もが忙しい毎日を送っていると思いますが、私たちの医療とは、医師をはじめ様々な医療スタッフの働きによって、患者さんや社会の中の健康を守る医療というインフラを、何重にも厚みと広がりをもって守っている現場であるということに初めて気がつきました。

またある疾患を早期発見するための「検診」はターゲットとする疾患が決まっていて、それを早期発見することが目的ですが、疾患によっては何歳まで「検診」を受けるのか、という正解がないジレンマがあることも知りました。沖縄県は健診受診率が低いことが問題になっており、平均寿命の順位が下がってきていることを考えても、行政や医療者だけの問題ではなく、企業や社会を巻き込んで対応していかなければならない大きな問題であること、またそれに対して様々な取り組みが行われていることもご紹介いただきました。

次に豊見城中央病院附属健康管理センターの西平恵梨先生に「健診センターでの働き方」というタイトルでお話を伺いました。

実際の1日のスケジュールを教えて頂きましたが、子育てをしながら朝早くから働いておられて、びっくりしました。働き方はとてもフレキシブルで、センター内でのコミュニケーション、連携がよく取れており、急な休みに対する応援体制が整っており、勤続年数が10年を超える医師もたくさんいるというお話を伺い、これが長続きする秘訣であることを学びました。西平先生はライフイベントを経験した際に、先輩医師から「細く長く仕事をすればいい」とアドバイスもらったことが大きな転機になったとお話されていて、豊見城中央病院附属健康管理センターでの働き方は、この4月から始まった医師の働き方改革ともあわせて、私たち医師一人一人が心も体も健康な状態で、医師という仕事を長く続けていくためのヒントを頂くことができました。また、人間ドック専門医制度についてもご紹介いただいたのですが、オンラインで講習を受けることができるなど、学会自体も働き方に配慮した体制を組んでいることがわかりました。

全体を通して、いかに私自身が健診の制度や業務を理解していないのかがよくわかりました。質疑応答の中でも出ていた、健診/検診異常に対する患者さんへのアプローチについては、それぞれの疾患ごとのガイドラインを確認すること、また人間ドック学会のHPでは厚生労働省からの通知などもわかりやすく閲覧でき、これを参考にすると良いことを教えていただきました。また健診異常の紹介状を持ってくる患者さんに対する私たちの返書がとても重要であること、健診センターの精度管理が評価され、それが公表されていることも初めて知りました。

お二人の先生が毎日の診療の中で、患者さんの目線を大切に、いかに自分の健康に関心をもって毎日の生活を送り、受診に繋げることができるか、行動変容を促すことができるかについて、きめ細やかに配慮した対応をされていることを伺いとても勉強になり参考になりました。

今回ご講演いただいた大城先生、西平先生、ご参加くださった皆様に感謝申し上げます。そして次回のドクターズフォーラムもぜひお楽しみに!!

お 知 ら せ

暴力団追放に関する相談窓口

暴力団に関するすべての相談については、警察ではもちろんのこと、当県民会議でも応じており、専門的知識や経験を豊富に有する暴力追放相談委員が対応方針についてアドバイスしています。

暴力団の事でお困りの方は一人で悩まず警察や当県民会議にご相談下さい。

●暴力団に関する困り事・相談は下記のところへ

受 付 月曜日～金曜日（ただし、祝祭日は除きます） 午前10時00分～午後5時00分

TEL (098) 868-0893 なくそうヤクザ 862-0007 スリーオーセブン

FAX (098) 869-8930 (24時間対応可)

電話による相談で不十分な場合は、面接によるアドバイスを行います。

「暴力団から不当な要求を受けてお困りの方は……悩まずに今すぐご相談を（相談無料・秘密厳守!）」

財団法人 暴力団追放沖縄県民会議